

第5学年1組 家庭科学習指導案

令和5年10月11日（水）第6校時
授業場所 A棟4階教室（5年1組）
在籍児童数 19名
授業者 教諭 青木 翠

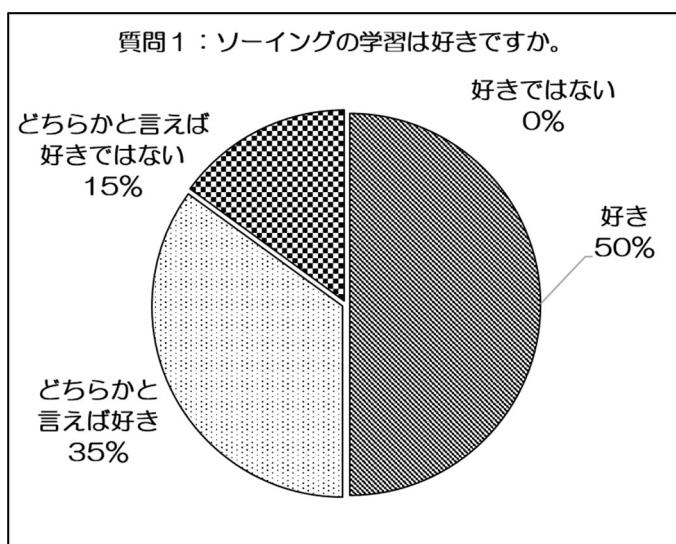
1 題材名 「ミシンでソーイング」～自分で作るエプロンを作ろう～
B 衣食住の生活 (5) ア (ア) (イ) イ

2 題材について

(1) 児童観

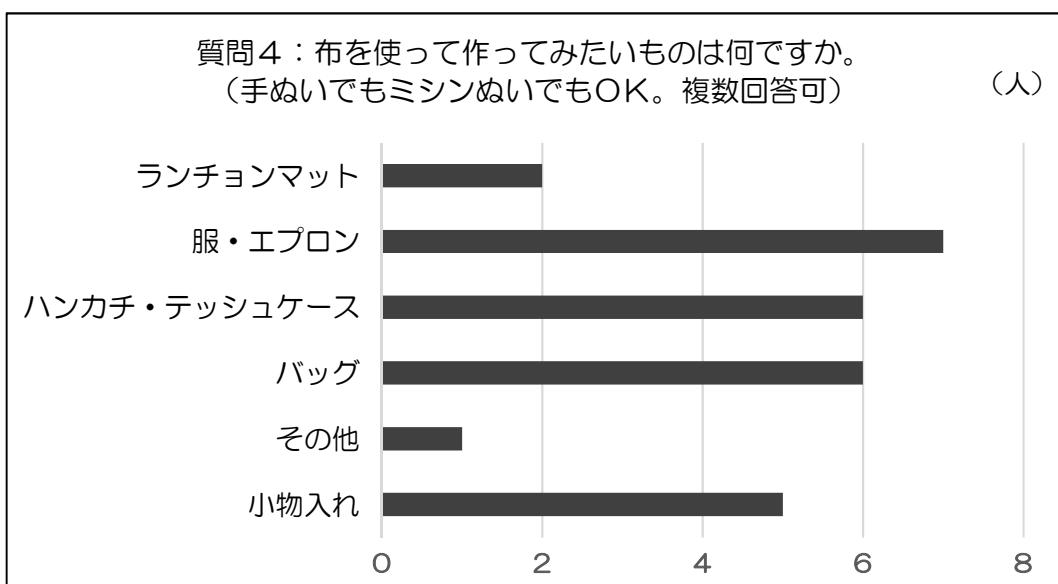
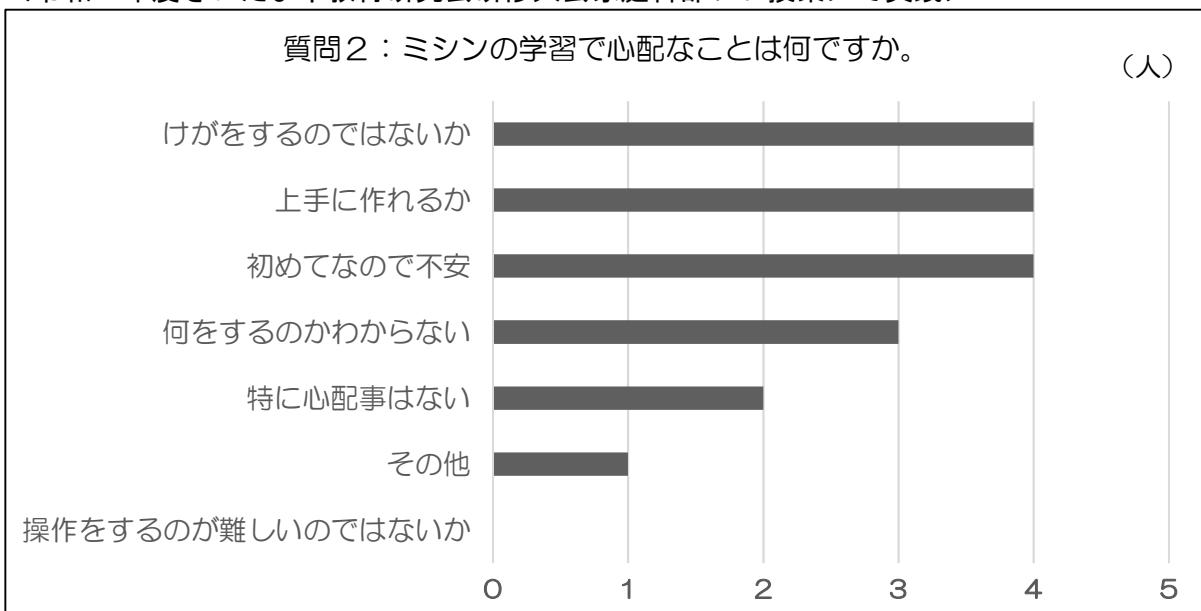
本学級は、家庭科の学習を好きだと感じている児童が多く、調理や製作等の実習に意欲的に取り組んでいる。1学期の題材「ソーイングはじめの一歩」では、縫い針に糸を通す、糸端を玉結びや玉どめをする、布を合わせて縫うなどを学習した。ここでは、なみ縫い、返し縫い、かがり縫い、ボタン付けを用いた小物づくりを通して、手縫いの基礎的・基本的な技能に併せ、用具の名称や扱い方などの知識を学んでいる。技能の習得については、玉結びや玉どめすることに苦手意識をもつ児童もいたが、友達同士で教え合ったり、練習を重ねたりしながら粘り強く取り組んでいた。本題材では、新たにミシンの知識と技能を身に付けさせ、さらにものづくりの楽しさと実践的な態度を育てていきたい。本題材に係る児童の実態調査の結果は以下のとおりである。

(調査人数 18名 令和5年9月実施)



質問1から、家庭でのミシン使用の経験がある児童は少ないが、ソーイングの学習に対して肯定的な気持ちをもつ児童が多いことが分かった。質問2においては、ミシンの学習を始める上で、児童が怪我などの安全面の不安が見られた。これは、1学期から積み重ねてきた、実習における安全面・衛生面の意識の高さが結果につながっていると思われる。学習を進めるにあたり、安全を確保するための統一したルールや声掛けを徹底し、指導していきたい。また、「上手に作れるか不安」と感じている児童がいる実態を考え、個に応じた課題設定の時間の確保や、個々の振り返り等を評価して、指導の充実を図っていきたい。

＜令和5年度さいたま市教育研究会研修大会家庭科部プレ授業にて実践＞



(2) 題材観

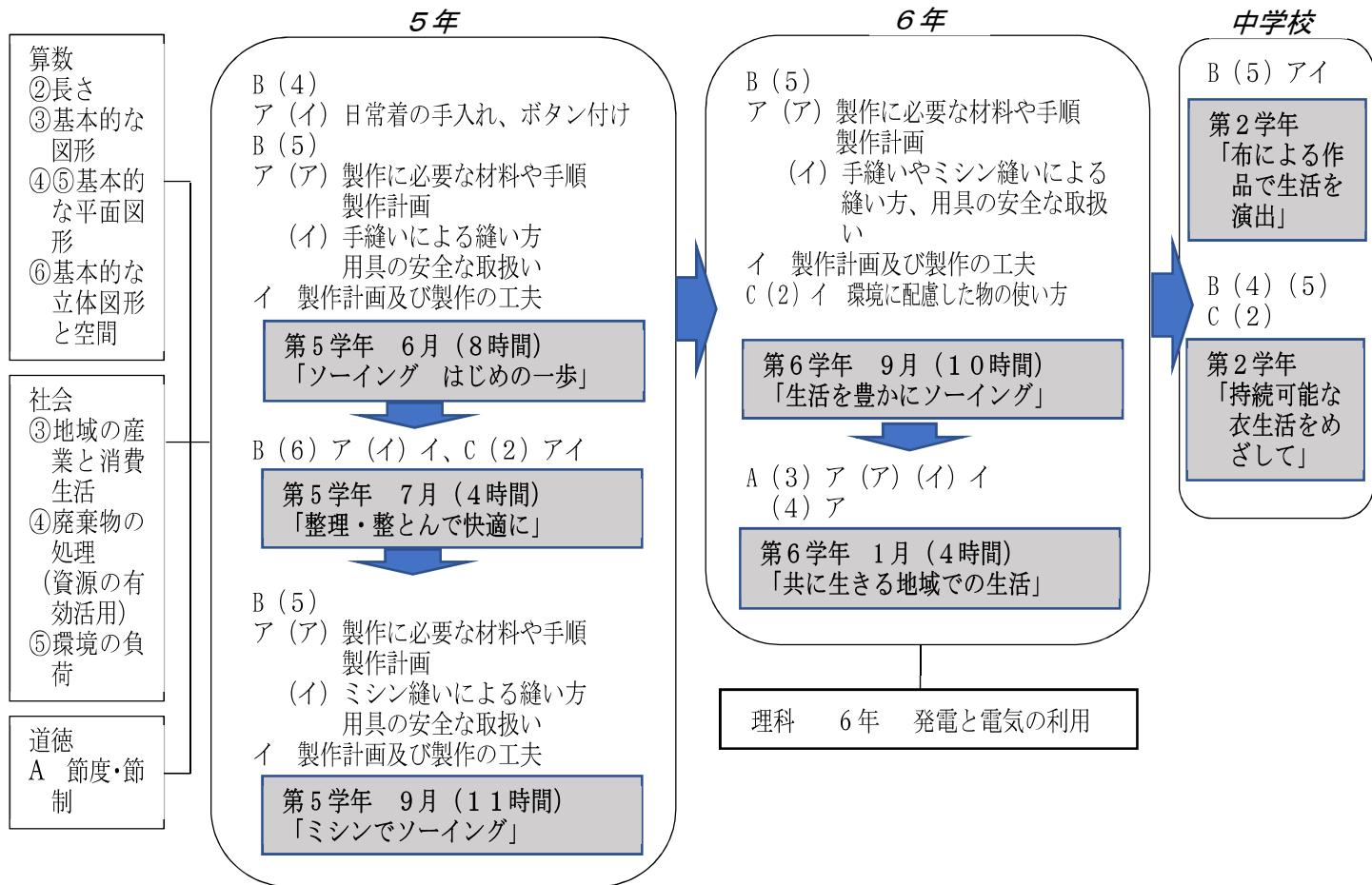
本題材は、小学校学習指導要領内容B「衣食住の生活」の(5)「生活を豊かにするための布を用いた製作」を受けて設定したものである。ここでは、生活を豊かにするための布を用いた製作について、課題をもちながら、製作に必要な材料や手順、製作計画、手縫いやミシン縫い及び用具の安全な取扱いに関する基礎的・基本的な知識及び技能を身に付け、製作計画を考え、製作を工夫することができるようすることをねらいとしている。

現在、児童を取り巻く社会は物資があふれ、お金を出せば容易に布製品を買うことができる環境にある。学校で使う雑巾や道具を入れる袋なども買って持ってくる実態がある。本題材では、生活をよりよくするための必要感を感じさせながら、学校生活と家庭生活両方で活用することのできるエプロン製作を通して、手作りのものを活用する喜びを味わわせ、家庭生活を豊かに楽しく、よりよくしようと工夫し実践する力を身に付けさせたい。

本題材であるB(5)及び他教科等との関連、中学校との系統性は【関連図】に示すとおりである。家庭科での系統性や他教科等での学習を踏まえ、関連付けることで、学習の深まりや広がりにつながり、学んだことが生活に生きるということを実感できる題材であると考える。

＜令和5年度さいたま市教育研究会研修大会家庭科部プレ授業にて実践＞

【題材の系統性と他教科等との関連図】



(3) 指導観

本学級の児童は、1学期「ソーイング はじめの一歩」で、フェルトを使用し手縫いで簡単な小物づくりを行った。本題材の「ミシンでソーイング」の指導に当たっては、ミシンで布を使った物の製作に取り組んでいくために、まず身近な布製品に目を向けたり、1学期に製作した小物づくりの作品を振り返ったりし、布製品のよさや特徴に気付くことができるようとする。その中で、手縫いのほかにミシン縫いの方法があることに気付かせながら、児童が主体的に学習を進めることができるよう、本題材を貫く課題を児童一人ひとりが設定する。その際には、エプロンを「どのように作りたいのか」について、きれいに縫えている物や縫い目が曲がっている物等の見本のエプロンを見比べさせながら、児童自らが自分に合った課題を設定できるようにする。

製作過程においては、ミシンの基本的な操作を理解して、エプロンを製作できるようにする。課題が似ている児童同士をグルーピングし、互いに教え合ったり、課題を解決したりできるようしていく。また、製作したエプロンを長く大切に使っていくために、丈夫に縫ったり、ほつれやすい布端を始末したりするなどの必要性に気付かせ、手順や縫い方などの根拠についても理解できるよう配慮する。ミシンの扱いについては初めての学習となるので、安全に十分留意しながら、一人ひとりの技能に応じて丁寧に指導に当たりたい。また、児童が主体的に課題を解決しながら活動ができるよう、タブレット端末で作成手順や製作方法について確認できる環境を整えていきたい。さらに、用具の安全な使い方や渡し方、アイロンの置き方、ミシンの安全な出し入れや移動などについても、危険防止や安全点検の確認を習慣化できるようにするために、製作の準備から片付けまで児童一人ひとりが責任をもって行うことができることを目指し、資料

＜令和5年度さいたま市教育研究会研修大会家庭科部プレ授業にて実践＞

の掲示や繰り返しの指導を行っていきたい。

製作後は実際に使用する期間を設けるとともに、使い心地のよさや改善点をグループや学級で交流する活動を通して考えさせ、製作した物を日常生活で活用したりする楽しさや、手作りのよさを味わったりすることができるようしたい。

3 研究主題との関わり

「学びをつなぎ、生活をよりよくしようと工夫し、実践する児童の育成」

視点1 問題を見いだし、解決すべき課題を設定する力の育成に向けた指導の工夫

今年度さいたま市では、小学校家庭科の目標（2）「日常生活の中から問題を見いだしして課題を設定し、様々な解決方法を考え、実践を評価・改善し、考えたことを表現するなど、課題を解決する力を養う」を実現するために、「問題を見いだしして課題を設定する」学習過程を充実させることに重点をおいて取り組んでいる。生活の課題発見の場面では、「子どもが生活の中から問題を見いだすための手立て」と「見いだした問題を課題の設定につなげるための手立て」が必要である。しかしながら、日常生活において児童が不便さを感じたり、より生活を豊かにしたいと考えたりする機会が少なくなっているのも現状である。

そこで、本題材では「子どもが生活の中から問題を見いだすための手立て」として、題材の導入時に見本用の「ミニエプロン」を2種類用意する。一つは、縫い目がまっすぐで正しい箇所が縫えているものであり、もう一つは、縫い目が曲がっていたり、縫うべき箇所が縫えていなかつたりするものである。この2種類のエプロンを見比べながら、エプロン製作に向けて気を付けたいことや大切にしたいこと等について話し合い、どのように製作していかといきたいかという「ねがい」をもつことができるようとする。その後、「見いだした問題を課題の設定につなげるための手立て」として、ムーブノートを活用して一人ひとりの「ねがい」を全体で共有し、キーワードとなる言葉を集めながらクラス全体で題材を貫く課題を設定していく。

個人の課題や題材を貫く課題を明確にすることで、学習のゴールを児童にとってイメージしやすく、かつ主体的に自分に必要な知識・技能を身に付けていこうとする姿が見られると考える。

視点2 成長を実感できるようにする評価の工夫

ポートフォリオを活用し、課題の解決に向けて工夫したことや自己評価の記述内容から、個や全体に対しての次時への手立てを講じ、児童が課題解決や実践の評価・改善ができるようにしていく。特に製作過程においては、製作にあたっての記述や行動観察から主体的に学習に取り組む態度を評価し、うまくいかなかったことに対して粘り強く取り組む中で、自らの学習を調整できるよう指導を工夫する。また、ポートフォリオに導入時の自分の課題を記入し、題材の終末での実践報告会においてその課題の達成状況を自己評価することで、自分の知識・技能の高まりや、新たな課題を発見する力が育っていることを実感できるようとする。さらに、製作した作品を生活の中で繰り返し活用したり、これから的生活を豊かにする作品を進んで製作したりしようとする態度も育んでいく。

視点3 小・中・高のつながりを意識した学習指導の工夫

3ページの図で示したように、「生活を豊かにするための布を用いた製作」に関する内容は、中学校3学年までの家庭科の学習内容を貫く内容である。第5学年の本題材においては、ミシンの操作を一人で行うことができるようになり、基礎基本となる知識・技能を確実に身に付けられるよう指導する。また、タブレットを用いて操作手順を繰り返し確認できるようにしたり、ペアや

＜令和5年度さいたま市教育研究会研修大会家庭科部プレ授業にて実践＞

グループの友達の実習の様子を見ながら質問したりすることが容易にできる雰囲気づくりを大切にしていく。

第6学年では、個別最適な学習の充実を図る学習展開を取り入れ、身に付けた知識・技能を活用し、製作計画を自分なりに工夫したり、自分で製作手順を決めたりできるようする。知識・技能の確実な定着を図り、児童がミシンはとても便利な道具であり、それを活用して布を用いた作品を製作することは楽しいと感じられるようする。このような指導を行うことで、中学校における製作に関する内容の学習においても、自分や家族の生活に役立つ物の製作や、不要となった布製品を作り変えて活用することへの興味・関心を高め、家庭実践へつなげられるようにしたい。

4 題材の目標

- (1) 製作に必要な材料や手順が分かり、製作計画について理解する。また、手縫いやミシン縫いによる目的に応じた縫い方及び用具の安全な取扱いについて理解するとともに、それらに係る技能を身に付ける。【知識及び技能】
- (2) 生活を豊かにするために布を用いた物の製作計画や製作について問題を見いだして課題を設定し、様々な解決方法を考え、実践を評価・改善し、考えたことを表現するなどして課題を解決する力を身に付ける。【思考力、判断力、表現力等】
- (3) 家族の一員として、生活をよりよくしようと、生活を豊かにするための布を用いた製作について、課題の解決に向けて主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、生活を工夫し、実践しようとする。【学びに向かう力、人間性等】

5 題材の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none">・製作に必要な材料や手順が分かり、製作計画について理解している。・ミシン縫いによる目的に応じた縫い方及び用具の安全な取扱いについて理解しているとともに、適切にできる。	<ul style="list-style-type: none">・生活を豊かにするために布を用いた物の製作計画や製作について、問題を見いだして課題を設定し、様々な解決方法を考え、実践を評価・改善し、考えたことを表現するなどして課題を解決する力を身に付けています。	<ul style="list-style-type: none">・家族の一員として、生活をよりよくしようと、生活を豊かにするための布を用いた製作について課題の解決に向けて主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、生活を工夫し、実践しようとしている。

【具体化した評価規準】

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>① 製作に必要な材料や手順が分かる。</p> <ul style="list-style-type: none">・適した布や糸・作業の流れ・しるし付け	<p>① 生活を豊かにするための布を用いた布製品の製作について問題を見いだして課題を設定している。</p> <p>② 生活を豊かにするための布</p>	<p>① 生活を豊かにするための布を用いた布製品の製作について、課題の解決に向けて主体的に取り組もうとしている。</p>

＜令和5年度さいたま市教育研究会研修大会家庭科部プレ授業にて実践＞

<ul style="list-style-type: none"> ・まち針、二つ折り、三つ折りなどの準備作業 ・糸の始末やアイロンがけなどの仕上げ作業 ・ひもの通し方 <p>② 製作する物の目的に応じて、形や大きさを決める必要があることが分かり、製作計画について理解している。</p> <p>③ ミシン縫いによる目的に応じた縫い方について理解しているとともに、適切にできる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・直線縫い ・返し縫い ・角の縫い方 <p>④ 用具の安全な取扱いについて理解しているとともに、適切にできる。</p>	<p>を用いた布製品の製作について考え工夫している。</p> <p>③ 生活を豊かにするための布を用いた布製品の製作について、実践を評価したり、改善したりしている。</p> <p>④ 生活を豊かにするための布を用いた布製品の製作についての課題解決に向けた一連の活動について、考えたことを分かりやすく表現している。</p>	<p>② 生活を豊かにするための布を用いた布製品の製作に関する課題の解決に向けた一連の活動を振り返って改善しようとしている。</p> <p>③ 生活を豊かにするための布を用いた布製品の製作について、工夫し、実践しようとしている。</p>
--	--	--

6 題材の指導と評価の計画 (11 時間扱い)

小題材 1 布製品のよさを知ろう	本時	1 時間
小題材 2 ミシンの使い方を知ろう		1 時間
小題材 3 練習布を縫ってみよう		2 時間
小題材 4 エプロンを製作しよう		6 時間
小題材 5 実践報告会をしよう		1 時間

時	ねらい・学習活動	評価規準 (評価方法)		
		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
① 本時	<p>○生活を豊かにするための身の回りの布製品や手縫い・ミシン縫いについて、問題を見いだして課題を設定する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・布製品のよさについて考える。 ・ミシン縫いのよさを探る。 ・2種類のミニエプロ 		<p>①生活を豊かにするための布を用いた布製品の製作について問題を見いだして課題を設定している。(ワークシート・観察)</p>	

＜令和5年度さいたま市教育研究会研修大会家庭科部プレ授業にて実践＞

	<p>ンを見て、縫い方や布の始末等を比較し、個人の課題を設定する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・設定した課題を共有し、学習計画を立てる。 			
2	<p>○ミシンの安全な取扱い、基本的な使い方について理解し、適切に直線縫いを行うことができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ミシンの安全な使い方について考え、話し合う。 ・ミシンの準備、片付けの仕方をタブレットで調べる。 ・空踏みや空縫いを行い、ミシンの動き・速さや布の進む方向を確認し合い、実際の直線縫いを行うことでミシンの操作を知る。 ・直線縫いをする。 	<p>③ミシン縫いによる目的に応じた縫い方について理解しているとともに、適切にできる。(行動観察・試し布)</p> <p>④用具の安全な取扱いについて理解しているとともに、適切にできる。(行動観察)</p>		
3 4	<p>○布の端の始末を学び、練習布を用いて縫う練習をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・端の始末をしているものとしていないものと比較し、必要性について考えて理解し、二つ折り・三つ折りができるようになる。 ・布がほつれないようにするための返し縫いの仕方を考えて理 	<p>①製作に必要な手順を理解している。(行動観察)</p> <p>③ミシン縫いによる目的に応じた縫い方について理解しているとともに、適切にできる。(行動観察)</p> <p>④用具の安全な取扱いについて理解しているとともに、適切にできる。(行動観察)</p>	<p>③生活を豊かにするための布製品の製作について、実践を評価したり、改善したりしている。(行動観察・ワークシート)</p> <p>④生活を豊かにするための布を用いた布製品の製作についての課題解決に向けた一連の活動について、考えた</p>	<p>①生活を豊かにするための布を用いた布製品の製作について、課題の解決に向けて主体的に取り組もうとしている。(行動観察・ポートフォリオ)</p>

＜令和5年度さいたま市教育研究会研修大会家庭科部プレ授業にて実践＞

	解し、できるようにする。	動観察)	ことを分かりやすく表現している。(ワークシート)
5 6 7 8 9 10	<p>○エプロンの製作について考え、問題を見いだして課題を設定しながら工夫して製作計画を立てることができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> できるようになったことを活用し、計画を立てる。 <p>○製作に必要な布の大きさが分かり、手順について理解することができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> 必要な布の大きさや材料を考える。 <p>○製作計画を基に縫い方や手順を考え、工夫して製作することができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> 製作計画に沿って学んだ知識・技能を生かして製作する。 グループで製作に取り組むことで、意見を出し合いながら、よりよい布製品が完成できるようにする。 	<p>①製作に必要な材料や手順が分かる。(行動観察・ワークシート)</p> <p>②製作する物の目的に応じて、形や大きさを決める必要があることが分かり、製作計画について理解している。(行動観察・ワークシート)</p> <p>③ミシン縫いによる目的に応じた縫い方(返し縫い、角の縫い方)について理解しているとともに、適切にできる。(相互評価・行動観察・製作物)</p>	<p>②生活を豊かにするための布を用いた製品の製作について計画を考え工夫している。(行動観察・ワークシート)</p> <p>③布を用いた布製品の製作について、実践を評価したり、改善したりしている。(行動観察・ポートフォリオ)</p> <p>※5～10時間目で適切な評価場面を設定する。</p>
11	<p>○エプロンの製作について、実践を評価したり、改善したりして、製作に対する意欲を高める。</p> <ul style="list-style-type: none"> 自分や家族が使ってみてどのように役立ったか、自分の気持ちや感想、作品のよい点等を話し合う。 		<p>④布を用いた布製品の製作についての課題解決に向けた一連の活動について、考えたことを分かりやすく表現している。(ワークシート)</p> <p>③生活を豊かにするための布を用いた布製品の製作について工夫し、実践しようとしている。(行動観察・ポートフォリオ)</p>

＜令和5年度さいたま市教育研究会研修大会家庭科部プレ授業にて実践＞

	<ul style="list-style-type: none"> 友達の発表やコメントから自分の作品を評価したり、改善したりする。 ○布を用いた製作物について、生活を工夫し、実践しようとしている。 ・自分の学習を振り返り、何ができるようになったか、どう頑張ったか、これからどう生活に生かしていきたいかを共有する。 			
--	---	--	--	--

7 本時の学習指導 (1／11時)

(1) ねらい

生活を豊かにするための布を用いた布製品の製作について、問題を見いだして課題を設定することができる。

(2) 展開

時間 (分)	学習活動	○教師の支援と指導上の留意点 ◇評価規準 →手立て
5	1 布製品のよさや背景について考える。	<p>○様々な素材でできた袋（紙、ビニール、布）や、身の回りの布製品（ランチョンマット、袋、カーテン、服など）の観察をすることで、各自で布製品のよさについて考えたことを全体で共有し、布製品のよさを確認させる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;"> <ul style="list-style-type: none"> 丈夫さ 環境（リメイク） 便利（袋物） 清潔（洗濯ができる） 美しい（カバーなど） 布製品への愛着 物や大きさに合わせて作れる 等 </div>
7	2 ミシン縫いのよさについて考える。	<p>○手縫いのものや布製品を用意し、布製品を作るには、「手縫い」と「ミシン縫い」の方法があることに気付かせる。</p> <p>○1学期に学習した手縫いと比較しながら、ミシン縫いのよさについてグループで考えたことを全体で共有し、ミシンで作品を作ることへの意欲を高めさせる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;"> <ul style="list-style-type: none"> まっすぐ・同じ幅で縫える（美しい） 短い時間で作れる 手縫いよりじょうぶ 複雑な布製品を作れる 等 </div>

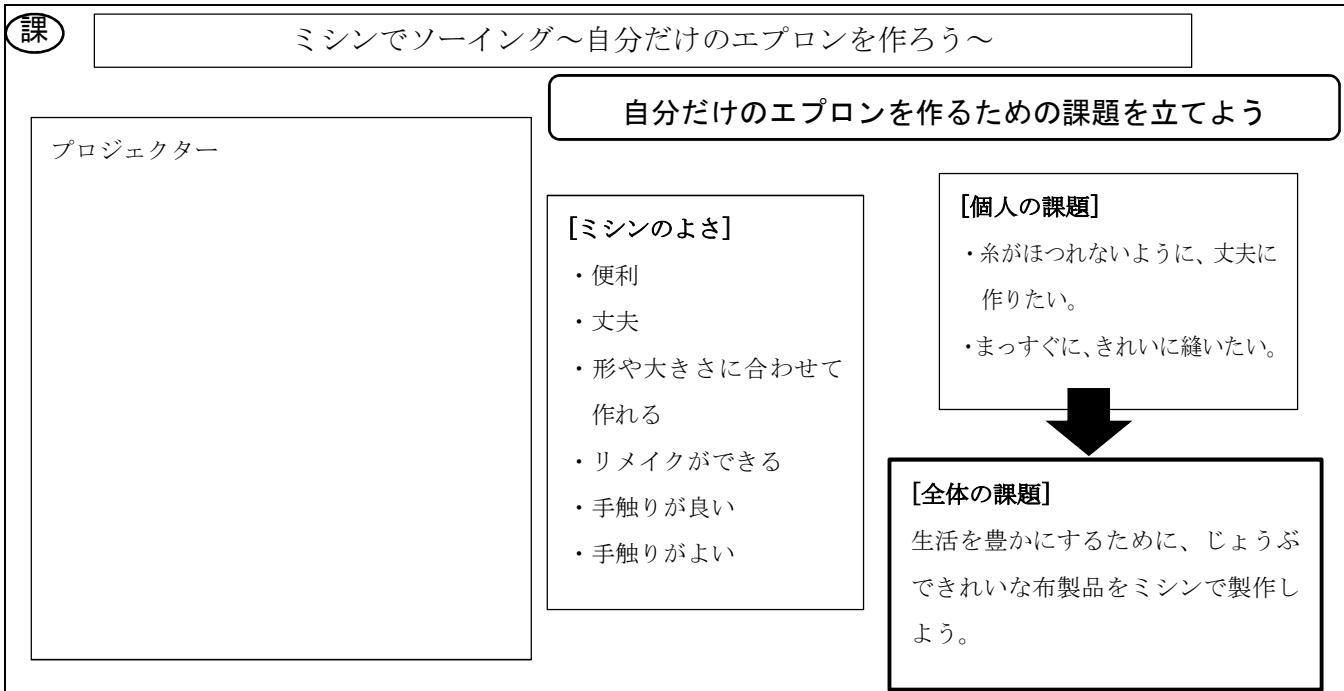
＜令和5年度さいたま市教育研究会研修大会家庭科部プレ授業にて実践＞

2	3 本時のめあてを確認し、学習の流れをつかむ。	○ミシンを使って製作すること、学校生活や家庭生活を豊かにする物として、「エプロン」を作ることを確認させる。
自分だけのエプロンを作るための「課題」を立てよう。		
10	4 2種類のミニエプロンの見本を観察し、製作するときに気を付けたい点等をグループで考える。	○きれいに縫えている物と、縫い目が曲がっていて三つ折りがうまくできておらず、布の端も出てしまっている物を見比べさせる。活動を通して、個人の製作活動に対する課題を考えさせる。
予想される児童の課題		
10	5 生活を豊かにするものをどのように作りたいか、個人で考えたことを全体で共有し、題材を貫く課題をつくる。	<ul style="list-style-type: none"> ・糸がほつれないように、丈夫に作りたい。 ・まっすぐに、きれいに縫いたい。 ・計画をしっかり立て、失敗しないように作りたい。 ・安全にミシンが使えるようになりたい。 <p>○ムーブノートを活用することで、全体で課題を共有する。</p> <p>◇生活を豊かにするための布を用いた布製品の製作について問題を見いだして課題を設定している。</p> <p><思考・判断・表現> (タブレット・観察) →ムーブノートの友達の意見を参考にして、どのように布製品の製作を行いたいかを考えるように助言する。</p>
自分だけの○○なエプロンを作るために、ミシンを安全に使い、ミシン技を身に付けよう。		
8	6 学習計画を立てる。	○ミシンで布製品を製作するには、どんなことを学ぶ必要があるのか、個人で設定した課題を解決するには何ができるようになったらよいのかを考えさせ、ワークシートに記入させる。
① 布製品のよさを知ろう ② ミシンの使い方を知ろう ③④ 練習布で縫ってみよう ⑤～⑩ エプロンを製作しよう ⑪ 実践報告会をしよう		
3	7 学習のまとめ・振り返りをする。	<p>○全体で確認することで、学習の見通しをもたせ、これからの学習への意欲を高めさせる。</p> <p>○ポートフォリオに振り返りを記入させる。</p>

※ムーブノート：株式会社ベネッセコーポレーションの協働学習支援ソフトのこと。

＜令和5年度さいたま市教育研究会研修大会家庭科部プレ授業にて実践＞

(3) 板書計画



8 授業の実際



教師の生活経験から、布製品のよさやその使い方等の背景を考える。



2種類のミニエプロンの見本を観察し、製作する時に気をつけたい点等を考え、共有する。



ミシンで布製品を製作するにはどのようなことを学ぶ必要があるのかを考える。



個人で設定した課題を解決するために、どのように学んでいくか、全体で計画を立てる。

＜令和5年度さいたま市教育研究会研修大会家庭科部プレ授業にて実践＞

9 指導講評

指導者：さいたま市教育委員会学校教育部指導1課指導主事 小林由美恵 先生

（1）授業者より

- 導入を「教師の困りごと」を児童に説明することで工夫した。生活の中で、児童は布製品で困ることがない。
- 導入で説明したいことをパワーポイント資料で示すことで、短時間で話すことができた。
- ミニエプロンは、見沼区の先生方が協力して製作してくださった。2種類を比較させる際、児童にミニエプロンを見る視点を与えてもよかったです。
- タイムマネジメントを工夫したい。学習計画の立案までいかずになってしまった。

（2）参観者より

- 2種類のミニエプロンの比較が効果的であった。○に触れるよさが効果的であった。
- 児童の実態に合わせ、ミシンを動かすところを提示してもよい。
- 児童の言葉を使って学習計画が立てられるともっとよい。
- 見沼区内のそれぞれの学校にて、本研究に向かって実践・取組ができたことがよかったです。
- 「三つ折り」が理解できていない児童がいたため、説明が必要だった。
- ひもを通す部分の説明については、6年児童が作成したエプロンを提示するとよい。
- 上手にできているエプロン（緑のミシン糸のエプロン）が、児童の目標になり、技能習得の評価につながる。
- 2種類のミニエプロンを比較する場面では、比較した内容を言語化し、話し合わせたりワークシートに記入させたりするとなおよい。

（3）指導講評

- 本時のような課題設定の場面は、国としても力を入れている内容である。
- 児童が主体的に課題設定をするために、「良い点・悪い点を比較し、良い点を目指すためはどう学ぶか」を考えさせるという方法がある。
- 児童の振り返りや設定した課題を見ると、ミシンの技能習得についてのめあてが多く見られた。
- 本時の評価については、課題設定の理由をしっかりと記入させることがよい。
- 市が推進している「学びのポイント（じ・し・や・く）」の視点からも、自分で課題設定をすることができていた。
- 製作（ミシン）の学習は、2年間で系統的に学ぶことが大切である。
- この実践を、ぜひ市全体へ広めていただきたい。



【研究協議会の様子】

(4) 本時のワークシート

「ミシンでソーイング」～自分だけのエプロンを作ろう

5年 組 ()

1 ミニエプロンを見て、気付いたことを書きましょう。

（ここにミニエプロンを見て、気付いたことを書く欄があります。）

2 どんなことに気を付けてエプロンを作りたいですか。自分の課題を決めよう。

（ここに課題を決める欄があります。）



3 全体の課題

（ここに全体の課題を決める欄があります。）

4 学習計画を立てよう！

① (布製品) のよさを知ろう！

② (ミシン の 使い方) を知ろう！

③④ (練習布) で縫ってみよう！

⑤～⑩ (エプロン) を製作しよう！

⑪ (実践報告会) をしよう！

＜令和5年度さいたま市教育研究会研修大会家庭科部プレ授業にて実践＞

ミシンでソーイング 5年 組 名前 ()

(自分の課題)		(クラスの課題)
---------	--	----------

日付	めあて	ふりかえり
/	自分だけのエプロンを作るための「課題」を立てよう	
/	ミシンの使い方を知ろう	
/	練習布を実際にミシンで縫ってみよう	
/	自分だけのエプロンを製作しよう①	
/	自分だけのエプロンを製作しよう②	
/	自分だけのエプロンを製作しよう③	
/	実践報告会をしよう	